





◆海外市場調査の Web サイト『グローバルマーケティングラボ』もご覧ください。

<http://www.global-marketing-labo.jp>

近年のマーケティングの対象は国内市場中心からグローバル市場へと広がっております。

弊社では、グローバル市場においても足で稼ぐ生きた情報を収集すべく、充実した社内体制と外部ネットワークを構築し、多数の海外調査を実施しております。

『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査のメニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は  
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

---

#### WEEKLY NEWS

---

◆共同研究：住友理工が名古屋大学と熱マネジメントに関する共同研究を加速（6月22日）

住友理工は、名古屋大学と結ぶ指定共同研究制度に基づく共同研究契約が2年目を迎えたことを受け、今後さらに共同研究を推進し、成果を追及していくと発表した。

自動車の電動化が進むと、従来の自動車が抱えてきた熱流入・熱損失によるエネルギー損失の課題に加え、電動車特有のバッテリーやモーターなどから発生する熱が問題となる。この管理を怠ると、電力消費率が低下するほか、空調使用時には航続距離の大幅な低下につながるため、高効率で快適な電動車の提供には、熱マネジメント技術の向上が喫緊の課題になっている。

材料技術の熱マネジメント展開を加速する包括的な共同研究として、材料開発や、材料の熱物性シミュレーション、特異な材料を使った熱機能デバイス・システムの開発など、年間4テーマ程度を設定し、新商品創出に必要なコア技術開発を推進していくとしている。

◆樹脂関連：三菱ケミカルが Welset Plast Extrusions 社の塩ビコンパウンド事業を買収（6月21日）

三菱ケミカルがインドの Welset Plast Extrusions Pvt. Ltd（以下、Welset 社）との間で、同社の塩ビ（PVC）コンパウンド事業を買収することで合意したと発

表した。引渡しは本年秋を目処に予定している。

Welset 社の PVC コンパウンド業は、特にメディカル分野ではインド国内で最大のシェアを持つなど、インド・ASEAN 市場において確固たる基盤を有している。

今回の買収により、三菱ケミカルは、メディカル用 PVC コンパウンド事業に新たに参入することになっているとしている。

◆顔料：DIC がインドネシアに「顔料技術センターアジアパシフィック」を設立  
(6月21日)

DIC は、インドネシアの 100%子会社である PT.DIC グラフィックスで主にフタロシアン(ブルー)顔料を生産するカラワン工場内に、製品開発のスピード化および高付加価値化を目的とした「顔料技術センターアジアパシフィック」を 2018 年 1 月に設立したことを発表した。

同工場は、自社製クルード(顔料中間体)から顔料までの一貫生産体制を強みとし、2012 年からはグローバルにフタロシアン顔料事業の生産最適化による競争力向上および生産基盤の確立を実現しながら、生産能力を拡張してきた。

同社グループでは、日本および米国に有機顔料の研究施設を有しているが、東南アジア地域において初となる同センターの設立により、アジアを含めたグローバル市場を対象とした高付加価値製品の製品開発など、製造部門と技術部門とのさらなる連携強化が期待できるとしている。

◆ガス関連：エア・ウォーターが窒素ガスの発生量が従来機の 1.8 倍の小型 PSA 窒素ガス発生装置「BPN3」を開発(6月21日)

エア・ウォーターのグループ会社で PSA 式窒素ガス発生装置の製造・販売を行うエア・ウォーター・ベルパールは、高効率に窒素ガスを発生できる小型 PSA 窒素ガス発生装置「BPN3」を開発したと発表した。

新製品「BPN3」では、新たに開発した吸着材を使用し、従来機「BPN2」と比べて、窒素ガスの発生量を約 1.8 倍に高めるとともに、低消費電力化により約 20%の省エネを実現した。また、ガス発生プロセスを見直すことで窒素ガスの吐出圧力を約 6%アップするとともに、97%~99.99%までの幅広い窒素純度に適応している。

本装置の主な用途は、小型はんだ付け装置、3D プリンター、樹脂成形装置、ページガス、食品包装ガス、防爆用ページガス、金属熱処理酸化防止ガスなど多岐にわたり、本年 9 月から販売を開始する予定としている。

◆水処理膜：日東電工がシンガポール初となる海水と貯水池の 2 種類を水源と

する水処理プラント向けに逆浸透膜(RO 膜)を受注(6 月 21 日)

日東電工は、シンガポール初となる海水と貯水池の 2 種類を水源とする水処理プラント『Keppel Marina East Desalination Plant(通称 KMEDP)』(最大生産水量:137,000m<sup>3</sup>/日)向けに逆浸透膜(RO 膜)を受注したことを発表した。2020 年の設備稼働開始予定にあわせ、2018 年度に出荷を開始する計画である。

シンガポールの水資源は自国内での集水、隣国マレーシアからの輸入、排水再利用(NEWater:先端の膜技術及び UV 殺菌技術による高度な浄水技術で飲料水基準を満たす水質にリサイクルされた水)、海水淡水化の 4 つの水源からなる。同国は国土が狭く、雨水を貯めにくいいため、排水再利用、海水淡水化の割合を増加させることで自国内での水資源確保の強化を進めている。

同社は、2000 年より排水再利用の「NEWater プロジェクト」に参画している。今後は更なる RO 膜の拡充によりシェアを増加させていくとしている。

◆発電設備:JXTG エネルギーが水島製油所における石油コークス発電設備を竣工(6 月 20 日)

JXTG エネルギーは、水島製油所において、石油コークスを燃料とするボイラ発電設備を竣工したことを発表した。同設備はコークスボイラの蒸発量が 530 トン/時、タービン発電設備の発電能力が 11 万 kW である。

これまで水島製油所では、自家発電した電力と一般電気事業者から購入した電力を使用してきた。自家発電設備の燃料としては、水島製油所内で製造している重油やオフガスに加え、石油コークスも使用している。石油コークスは石油精製の過程で生成する重質油を分解した残渣であり、重油やオフガスより安価な燃料となる。

今回、石油コークス発電設備が追加されたことで、購入電力の削減を図ることができるとともに、余剰となる電力を新電力として販売することが可能になるとしている。

◆石油化学:クラレがタイ・PTT グローバルケミカル、住友商事とブタジエン誘導品事業における合弁会社を設立(6 月 19 日)

クラレは、PTT Global Chemical Public Company Ltd.、住友商事との共同出資により、タイにおけるブタジエン誘導品の製造、販売を事業とする合弁会社を設立することを決定したと発表した。

合弁会社(Kuraray GC Advanced Materials Co., Ltd.)は、タイのラヨン県の石油化学コンプレックス内にある工業団地を候補地に高耐熱性ポリアミド樹脂 PA9T、水素添加スチレン系熱可塑性エラストマーの製造販売を行う予定である。

また、ブタジエン誘導品と同じ製造敷地内に、同社単独でイソブチレン誘導品MPD(3-メチル-1,5-ペンタンジオール)の生産設備も建設する予定で、当該製品の製造・販売を事業とするクラレ 100%出資会社も設立するとしている。

◆電子材料:デクセリアルズがFPC用低誘電ボンディングシートを開発(6月19日)

デクセリアルズは、5G通信に対応できるフレキシブルプリント基板(FPC)用低誘電ボンディングシート「D5200シリーズ」を開発したことを発表した。

2020年に5G通信の導入が予定されているスマートフォンや、先進運転支援システムの普及が進む自動車など、様々な領域において通信・伝送の高速化が進む中で、その伝送路となるFPCには高周波の信号を損失なく伝えることが要求されている。それに対応すべく、同社は低誘電ボンディングシート「D5200シリーズ」を開発した。

「D5200シリーズ」は液晶ポリマー(LCP)を使用しており、誘電率と誘電正接を抑えながら、吸水後でも誘電特性の変化が少ないといった特徴がある。また、180°Cで接着可能で、既存のFPC製造設備で使用することができる。さらに、エポキシ樹脂に最適に配合することで、銅箔に対する接着強度13N/10mmを実現し、誘電率の低さと高い接着強度を両立することを可能にしたとしている。

◆海外展開:東レのタイ子会社がベトナムにおける樹脂事業駐在員事務所を設立(6月18日)

東レは、拡大するエンジニアリングプラスチック需要の取り込みを図るため、ベトナムにおける樹脂事業のマーケティング拠点として、タイ法人のタイ・トーレ・シンセティクス(Thai Toray Synthetics Co., Ltd. 略称:「TTS」)の駐在員事務所をハノイ市に設立し、6月より活動を開始したと発表した。

今回の駐在員事務所設立により、経済成長が見込まれるベトナム市場において、エンジニアリングプラスチック(ナイロン樹脂、PBT樹脂、PPS樹脂)のより一層の拡販を目指すとしている。

◆価格改定

- ・住友化学がエチレン-酢酸ビニル共重合体エマルジョンを7月1日納入分より値上げ  
値上げ幅は、20円/kg
- ・クラレがポリビニルアルコール樹脂を7月1日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、日本:30円/kg、ヨーロッパ:0.2ユーロ/kg

- 北米、南米、アジアパシフィック、中東、アフリカ:0.25USドル/kg
- ・カネカが次亜塩素酸ソーダを7月1日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、6円/kg以上
- ・積水化学工業が包装用粘着テープ製品(クラフトテープ)を8月20日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、15%以上



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

- ◆メールの設定により、読み難くなる場合がございます。ご容赦ください。
- ◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ [h-ikeda@kohken-net.co.jp](mailto:h-ikeda@kohken-net.co.jp)

